



酒造好適米「吟のいろは」通信

令和4年8月発行

宮城県美里農業改良普及センター

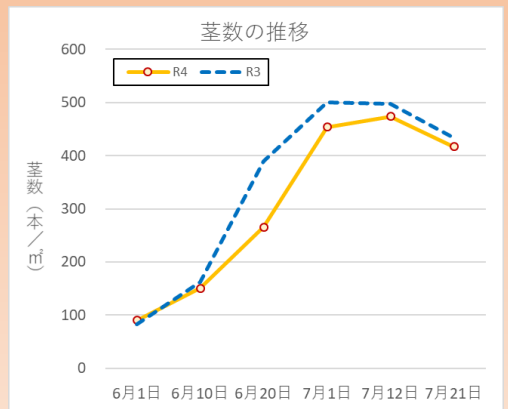


8月の「吟のいろは」

松山町酒米研究会の生産者が栽培している「吟のいろは」は、7月は高温で推移し茎数が順調に増加し、前年比96%とほぼ前年並みとなりました【図】。

7月中旬には記録的な大雨となり、「吟のいろは」のほ場も一部冠水するなど生育が心配されましたが、比較的水が引くのが早かったことから大きな影響はなさそうです。

8月に入ると続々と穂が出始め【写真】、8月3日頃から順次出穂期を迎えそうです。



図：「吟のいろは」茎数の推移 (松山地域調査ほ場の平均値)



2回目現地検討会開催！

「吟のいろは」の栽培技術の向上を図ろうと、2回目の現地検討会が7月26日（火）に開催されました。前回同様の快晴の天候の中で、大雨後にも関わらず生産者、関係機関の担当者等、多数の参加者が今後の栽培管理について検討を行いました。

普及センターからは生育量に基づく追肥の考え方を、古川農業試験場からは、落水時期や刈取時期等についてそれぞれ説明を行いました。

季節予報（7月28日 仙台管区气象台発表）によると、今後も平年より気温が高い傾向が続くようです。大雨や高温など気がかりな事の多い年ですが、良質な酒米生産に向けて情報提供等で生産者と共に励んでいきます！

